

共生・公正・創造



# ユニオン・EYE

<http://www1a.biglobe.ne.jp/jrtu-EWU>

ジェイアール東日本労働組合  
〒108-0014 東京都港区芝5丁目33番36号  
TEL(NTT)03-3453-2107 (JR)057-2290  
発行者/今井 伸 編集者/平 憲治

“許せない東労組の人権蹂躪・三鷹電車区事件!”

## 「三鷹電車区で何があったのか!」

JR連合は今、シリーズ「検証・浦和電車区事件の真実」をホームページ上で展開しているが、その1年前に浦和電車区よりもひどい東労組による人権蹂躪があった。その被害者・佐藤久雄さんの当時の日記から再現し、すべてのJR東日本社員の皆さんに事実を訴えたい。それは、規律ある職場秩序を確保し、社員がお互いに信頼し合い、安心して働ける職場を築くためである。

### 第19回 支援隊が目撃したもの

平成11年10月21日

佐藤さんが出勤すると、東労組組合員約30名が通路に人垣を作って待ち構えていた。16時からI教育担当助役が、21時からY副区長が添乗したが、逆に佐藤さんを恫喝している武蔵小金井電車クのO運転士から「Yさん、そんなやつかばうな」と言い返されたという。最後にO運転士は、運転台のドアを思い切り締めてそこを立ち去った。それを見ていたお客様はびっくりしていた。この件で電車は数十秒発車が遅れた。これらホームで起きた出来事は、昼夜を問わず佐藤さんの保護を目的として行動を共にしていた支援隊は、目の前で目撃した。

平成11年11月12日

昼ころ、佐藤さんが乗務先の甲府駅ホームで、運転してきた特急「あずさ55号」から降車するのを待ち受け、東労組組合員約20名が佐藤さんに罵詈雑言を浴びせながら、甲府運転区まで付きまとった。また、昼食休憩で佐藤さんが甲府駅構外食堂に行った時も東労組組合員数名がついてきて食事を監視した。さらに、休憩後、復路の電車に乗る時も東労組組合員20～30名が佐藤さんに付きまとい、そのうち2名が同じ電車の先頭車両に乗り込み、運転席後方に張り付いて、佐藤さんに対して「この野郎。こんなところでブレーキかけやがって。へたくソ、危ねーな」などと佐藤さんの運転を妨害した。支援隊はこの日の一部始終を見た。夕方、やっとの思いで佐藤さんは三鷹電車区に着いたが、我々支援隊は、佐藤さんが職場という密室の中でいじめられていても何もできず、正門でじっと待っているだけだった。やっとなつと佐藤さんがイジメから解放されて帰ってきたので、「ごくろうさん」と身を乗り出したら、管理者と東労組組合員数十人が支援隊のところへどっと押し寄せ、押し問答となった。以下、支援隊と副区長や東労組組合員との会話を再現する。

東労組組合員・副区長「中に入るな」

支援隊「あなた方だってよそ者を入れているじゃないか」

東労組組合員「知らない。いいから入るな」

支援隊「久雄さんを迎えに来ただけだ。密室での集団つるしあげはやめなさい」

副区長「正門前ですから静かにしてください」

支援隊「ロッカー室での外にも聞こえる罵声はいいのか」 副区長「知らない」

支援隊「外でもあれほど聞こえるのに中で聞こえないわけがないだろう」

副区長「とにかく我々は職場のことはきちんとやっていますのでお引取り下さい」

支援隊「職場の中で首絞めや盗難行為までされて、信用できるか」

副区長「知らない。事実だったら出るとこ出ればいい」

支援隊「当然、出るとこ出る」 副区長「あなた方が来るからこうなるんです。来なければ…」

支援隊「私たちが来るのは、佐藤さんが仕事を無事にできるようにするためだ。外に何も無い。

本当に約束できるか」 副区長「それは・・・」

(次号に続く)